



素敵な歌をありがとう!!

11月17日に1・2年生の学年別『合唱祭』を無事に開催することができました。1年生は2クラスとも、とても温かく、それぞれのパートが重なり合う素敵な合唱でした。そして、聴いている私たちに、しっかりとメッセージも届きました。聴いてくださった先生方からは、「とってもきれいなハーモニーだったよ。」「1年生なのに、あれだけ歌えるなんてすごいね。」「感動した!」「歌う態度も立派だったね。」などとお褒めの言葉をいただきました。

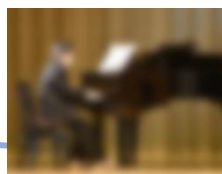
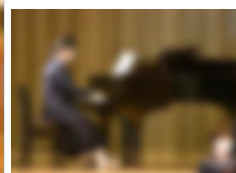
コロナ禍とトイレ改修工事のため、練習は例年通り…とはいかず、環境や時間の面で、不自由で大変なことも多く、「本当に歌えるようになるのかしら…?」とちょっと不安になることもありましたが、練習を通して、1年生のみなさんはお互いを認め合ったり、高め合ったりしながら、頑張っていました。また、ちょっと成長した姿を見ることができて嬉しく感じています。1年生もあと4ヶ月です。立派な2年生になれるよう、これからも頑張りましょう。



1年1組

「ベストハーモニー賞」

それぞれの個性を大切にし、透明感のある、とてもきれいなハーモニーでした。



1年2組

「大切なものに

気づいたで賞」

大切なものに気づいたうれしさが伝わってくるような1年生らしい温かい合唱でした。



12月の行事予定

- 1(水) 短縮校時 専門委員会(放課後)
- 2(木) 入学説明会 部活動参観
- 3(金) 短縮校時 歯科保健指導
- 5校時→2組 6校時→1組
- 9(木) 短縮校時 部活動中止
- 10(金) 人権学習

- 14(火) 3年生 租税教室
- 15(水) 2年生 スキー教室説明会
- 20(月) 6校時→火②
- 22(水) 金曜日の授業
- 23(木) 短縮校時 特別清掃
- 24(金) 終業式

🎵 合唱祭の作文を紹介します 🎵 (一部抜粋です)

「初めての合唱祭」

1組 渡辺 善

コロナが大流行している世の中で、修学旅行中止、体育祭も中止ということになってしまってとてもがっかりしました。その時の私は、合唱祭はただ歌うだけの行事だと思っていたので、正直あまり乗り気にはなりません。

練習が始まった直後はあまり面白い、楽しいなどの感情はなく、ただ軽く歌うだけだけの流れ作業のようでした。

しかし、パートごとに練習を重ね、自分たちの問題点を見つけて、できるだけ直していきました。

極めつけは2組との中間発表でした。一番手だったかもしれないけれど、声の大きさは圧倒的に負けていたと思います。その翌日、完ぺきにスイッチが入って声の大きさや他のパートとの合い方がすごく上がって、昨日の自分達ではない様になりました。

合唱祭本番少し緊張はしていたけれど、練習のすべてを出し切れたのではないかなと思いました。

そして、最終的にはベストハーモニー賞をもらい、みんなやってよかったなと思ったんじゃないかな、と思います。

「大切なもの」

2組 小林 輝磨

歌が決まった時、僕はとても嫌だった。歌を聞くのは好きだけど、歌うのは好きではなかった。

僕は、嫌だなと思いながら歌っていた。でも、その思いが頑張ろうと言う気持ちに変わった出来事があった。この「大切なもの」とは何なのかを考えるときだった。僕は、嫌だなとずっと思っていたので、そのようなことを考えたことはたことがなかった。自分の考えと友だちの考えを比べてみた。すると、いくつか違うところがでてきた。この時、この歌に初めて興味が出てこの歌はおもしろいと思った。それから、前と比べて声も大きくなり、帰るときなどに鼻歌をするくらいこの歌が好きになった。練習の時は、どうすればこの歌がもっと良くなるのかなどを考えて頑張れるようになった。

そして本番、自分が出せる一番の声で歌った。一瞬のように思えた。やり切った嬉しさと同時に、もうみんなと歌えなくなるのか…という悲しさもあった。

僕はクラスみんなに感謝したい。なぜなら、みんながいなければ「大切なもの」に気付かなかったからだ。僕はこの思いを一生大切にしたい。

「合笑祭」

1組 原田 律

「林間学校も体育祭もないのに、合唱祭はあるのか」正直、最初はこう思っていた。だけど、仲間と練習を重ねていくうちに、ただの合唱祭が合笑祭へと変わっていった。文字通り笑顔のあふれる素晴らしいものとなったのだ。

本番当日、1組はベストハーモニー賞をもらった。金賞よりも何よりも価値のある賞だと思う。記念写真の中の皆は、すごく満足気に見えた。

私が合唱祭で学んだことは、嫌だったことでも続けると好きなことになるかもしれないということと、一緒に努力し続けられる仲間の大切さ。この2つである。来年もまた、名誉ある賞をもらうため、全力で歌を歌おうと思う。

「みんなで作った合唱祭」

2組 新井 一輝

「サッ。」指揮者が手を上げ、みんなが一斉にそこを見る。その時、僕の心臓はバクバクと鳴っていた。伴奏者がピアノのきれいな音色を体育館中に響かせ、曲が始まった。

僕は初め、アルトパートを希望した。歌ってみると、先生にソプラノパートをすすめられた。僕は、男だからといってソプラノパートは無理だと決めつけていたようだ。いざソプラノパートを歌ってみると、アルトパートよりも歌いやすい気がした。初めは本当に下手で、音程すら分らなかった。しかし、同じソプラノパートの人たちと練習していく中でだんだんと上手くなった。

練習をしていた時間はうそのように一瞬に過ぎて、ついに本番を迎えた。2組が歌う曲は「大切なもの」。みんなが協力して、みんなで作った合唱祭は大成功に終わった。2組は「大切なものに気付いたで賞」をいただいた。みんなで歌えてとてもうれしかったし、楽しかった。

こうして、合唱祭は僕の思い出の1ページとなった。これからもクラスみんなで協力して、たくさんの壁を乗り越え、みんなの思い出のページ数をどんどん増やしていきたいと思う。

「合唱祭」

1組 田部井 奈央

合唱祭当日、今までの練習の成果を発揮できるか不安に押しつぶされそうだった。だけど、皆の真剣な顔を見て、自分もしっかりしないと、思った。

10月頃に始まった合唱祭練習、最初はやる気で満ちあふれていた。しかし、いざ歌ってみると声が小さいと言われ、開始一日目でやる気をなくした。これ以上声出したら絶対音程間違えるじゃん、と一人で言い訳をならべていた。

しかし、国語の時間に、この曲にはどんな思いが込められているのかを皆で話し合った。「一人で悩まないで」「味方はたくさんいるよ」などの意見があった。皆本当は面倒くさいんじゃないの、と思い顔色をうかがうと、皆真剣な顔をして班の人たちと話し合っていて、嫌々やっている自分とは正反対だった。自分がどれだけ皆に協力していなかったのかを知り、改めて今までの行いを見つめ直した。その日以来、本気で練習をやろうと思い、初めて練習をやった頃のようにやる気を出した。それから少しずつ「声出るようになったね」「きれいだね」と言われて、さらにもっと頑張らないと、と思えた。

そして、合唱祭当日、合唱が始まると唇がかすかに震えていることは分かった。体育館に響く歌声、歌が終わると同時に拍手が聞こえた。今までの練習の成果は発揮されたんだと分かり嬉しくなった。

「合唱祭の思い出」

2組 佐々木 沙優

つかれた。昼休みの練習が終わり、自分の教室に戻りながら、そう思った。

私は歌が苦手だ。別に音程が取れないとか、そういう訳ではない。ただ、ただ苦手なのだ。だから、合唱祭があると知ったときは、行事ができるという喜びがあった反面、「歌わなければいけないのか…」という気持ちでもあった。

練習が始まって半月くらいたった頃、色々と言いつつも真面目に練習していた私に転機が訪れた。歌を楽に、のびやかに歌うことができたのだ。嬉しかった。真面目に頑張ってた良かったと思った。自分も周りと同じように歌えていたのだと思うと、少し胸を張れた。

いよいよ本番前日、最後の歌の練習を全力でした。初めの頃のあの憂鬱な気持ちは、もう一片もなかった。

そして本番。伴奏が鳴る。歌い出す。歌っている間は走馬燈のように今までの思い出がよみがえった。歌い終わった後は、一瞬のことで驚いたが、心は晴れやかだった。